

第 1 部会	分野	まちづくり	第 1 部会—資料 3 1		
A 欄に関する意見メモ			C 欄に関する意見メモ		
<p>《現基本構想の進捗検証・評価》</p> <p>【空き家】</p> <p>○空き家が増加しているが、土地が動いていない印象(売買が少ない)がある。限られた地域内で空き地はもったいない。</p> <p>【交通】</p> <p>○区は南北の交通が円滑ではない。</p> <p>○自転車通行帯として車道の左側を走らせることは危険である。推進すべきではないと考えている。</p> <p>【協働】</p> <p>○まちづくりにおける協働の取組が、行政の下請け的なものが多い印象。</p> <p>《今後の社会環境や区民生活・意識の変化等の新たな視点》</p> <p>【住まい】</p> <p>○不燃化が進むと構造上(RC 造等)リフォームや増改築が困難に。居住スタイルの変化に伴う住宅ニーズとの乖離による転居が発生するなど、住み続ける住宅づくりと相反する場合がある。</p> <p>【空き家】</p> <p>○計画的に「歩きたくなるまちづくり」を進めるにあたり、今後も空き家・空き地が増えていく場合は、とりまとめることが困難になるだろう。</p> <p>【交通】</p> <p>○働き方改革・リモートワーク・デリバリーシステムの発達など、今後 10 年で会社などに行くための手段としての移動から、移動すること自体が目的化することが増えてくる。</p> <p>○今後 10 年で、一般道における自動運転の実現は難しいだろう。新しい交通体系として基本構想に描くのは困難ではないか。</p>			<p>《基本的な取組の方向性》</p> <p>【歩きたくなるまち】</p> <p>○歩きたくなるまちづくりを進めるためには、歩きやすくすることで、商店街の売り上げが上がる等の成功体験を作り、広げていくことが必要。</p> <p>【無電柱化】</p> <p>○優先整備路線だけでなく、道路幅が狭い道路程危険。防災の観点からも推進すべき。特に商店街において地中化が必要。</p> <p>○商店街は混雑が賑わいに繋がるが道幅が狭い。電柱が多く、電線がぶら下がっているため空が狭い。無電柱化を推進すべき。</p> <p>【景観づくり】</p> <p>○SNS で映える景観づくりはコロナ禍における景観や観光の視点で今後重要になる。郷土愛や魅力を高める効果の反面、私権に制限をかけるため景観計画の基本的な方向性は提示しておく必要がある。〈追加意見〉</p> <p>【空き家】</p> <p>○空き家対策において、もう一つ踏み込んで発生抑制の取組を行うべき。</p> <p>○土地が動かないことが経済停滞の要因の一つ。積極的に空き家や空き地の流動化を図るべき。</p> <p>○空き家・空き地問題について、地域ごとのまちづくり方針等で対策を重点化していく必要がある。</p> <p>【安全・安心】</p> <p>○災害に強い頑強なライフラインには、行政と住民の協力が欠かせない。</p> <p>○屋根の強いまちづくりを進める必要がある。</p> <p>○マンション・アパートのバリアフリー化は積極的に推進すべきである。</p> <p>【交通】</p> <p>○住宅都市杉並の魅力や価値を活かす上で、10 年後の移動・交流・流動といった現基本構想にはない観点に触れていく必要がある。</p> <p>○まちづくりにおいて、無電柱化や立体交差など公的な企業の協力が必要となる。基本構想において触れておくべきだろう。</p> <p>○移動の「目的化」が進むとすれば、効率的に早く移動するだけでない議論が必要だろう。</p> <p>○区の南北の交通が円滑となる取組を推進する必要がある。</p> <p>○区道に限ると事故のほとんどが自転車によるもの。自転車ネットワークが課題と考える。</p> <p>○区内の交通不便地域の解消が今後 10 年の目標として必要であり、メッセージとして区民に届けることが大事。</p> <p>○人の移動、人の流れをつくるまちづくりには、柱となる事業が必要。</p> <p>○人の移動、人の流れを作るまちづくりには、行政区域を超えて(隣接する他区との連携等)考えることも必要。</p> <p>○都市部は道路拡幅が困難。道路交通(車道や歩道)の再編成が必要で、それを明確に示していく必要がある。</p> <p>○交通に関して、移動することが楽しくなるような質の向上(質の転換を含む)が必要。</p> <p>○現在だけでなく将来の利用の仕方を想定して面積や規模の拡大だけでなく、質的な向上が必要。</p> <p>○駅周辺は地域交通の要となるため、駅前の整備は重要。</p> <p>○駅周辺は、商業や障害者施策など、いろんなことを絡めてつくっていくとまちの質の向上につながる。</p> <p>○住宅系都市として、「どんな駅前」を作るか、駅前をどうしていくか踏み込んで考えることが必要。</p> <p>○交通は隣接する他の区との連携が必要。</p> <p>○自宅から中心部への移動ベクトルが中心から地域・地区へ逆にシフトしてきている。交通の双方向性について考える必要がある。</p> <p>○地域公共交通の活性化及び再生に関する法律に基づき、自治体は原則として地域公共交通計画を策定することとなった。公営企業の協力という観点から必要な論点だと思う。</p> <p>○MaaS 等の新技術を活用した公共交通のシームレス化と感染症対策によるマイカーシフトを防ぐことは、交通弱者の生活確保、環境面にとって重要な取組である。〈追加意見〉</p>		
B 欄に関する意見メモ			D 欄に関する意見メモ		
<p>《目指すべきまちの姿》</p> <p>①「魅力ある歩きたくなるまち」</p> <p>②「新たな交流が生まれるまち」</p> <p>③「安全・安心で住み続けられるまち」</p> <p>④「住民主体の協働が進むまち」</p> <p>《目指すべきまちの姿を設定した考え方など》</p> <p>①まちの活性化やにぎわいの創出を、駅周辺を起点に各地域・地区の商店街等に波及させるとともに、計画的な景観づくりや空き家対策、移動手段の充実を通じて、移動(散策)することが楽しいまちづくりを進める。</p> <p>②住宅都市すぎなみの価値をさらに高めるためには、公共交通と徒歩・自転車でのシームレスな移動サービスによる気軽に街に出かけられることに加え、交流・消費・にぎわいのある複合的な拠点としての質を高め、まちの活性化を図る。</p> <p>③公共企業等と連携した頑強なライフラインの構築、災害に強い家づくりを通じた安全・安心なまちづくり、多様なライフスタイルの変化にも対応して暮らしつづけられる柔軟なまちづくりを進める。</p> <p>④物・サービス・場所などを、多くの人と共有・交換して利用する仕組み(シェアリングエコノミー)や、住民合意によるまちづくりのルール作りを通じて住民同士が支え合う共助の力(区民力)を高め、住民が主体となったまちづくりを進める。</p>			<p>《具体的な手段・方法、取組など》</p> <p>【歩きたくなるまち】</p> <p>○(ニューヨークの事例のような)車道を狭くし、歩道を広げることで商店街の売り上げを上げるような取組(成功体験)を実施すべき。</p> <p>【景観づくり】</p> <p>○他区で取り組んでいる「景観百選」といった主要景観資源について区民による人気投票を行う取組。〈追加意見〉</p> <p>○屋外広告物ワークショップによる屋外広告物デザインのルール作りと意識啓発の取組。〈追加意見〉</p> <p>【空き家】</p> <p>○空き家・空き地の税制の見直し、所有者不明土地・固定資産税を滞納している土地の競売の積極的な活用による土地の流動化。</p> <p>○空き家を災害時仮設住宅として活用可能とするため、税制面の優遇をする登録空き家制度の構築。</p> <p>【安全・安心】</p> <p>○電力、ガスなど、ライフラインを提供する企業との協力体制を構築する。</p> <p>【交通】</p> <p>○(交通に関して)他区との連携を進めるプロジェクトの立ち上げ。</p> <p>○シェアサイクルの利用拡大に向けた民間事業者への区有地無償貸与。</p> <p>○南北交通円滑のため、自転車専用道路の整備、すぎ丸の周遊など区内の回遊性向上に取り組むべき。</p> <p>○車の一方通行化による自転車専用帯(歩道拡幅)の整備。</p> <p>○自転車ネットワーク計画の検証。</p> <p>○区民の安全な自転車走行のため、ナビライン(自転車)の区民周知の徹底。</p> <p>○地域公共交通計画の策定。</p> <p>○駅と周辺交通環境の整備は、対象地域ごとに異なるのではなくモデル地区を設定し、先駆的事例を作るような形で進めるべき。〈追加意見〉</p> <p>○荻窪駅周辺の商業ビル老朽化していく。建替えを個々の開発に任せていると駅前が高層マンション化するの恐れがある。社会人のリカレント、学びたい人は多いから、駅前に専門学校等を誘致すれば人の流れが生きてくるのではないか。</p> <p>【協働】</p> <p>○他分野の専門家を任期付きなどで自治体職員として採用。</p>		

	<p><b>【協働】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○区民力を引き出せるような区民による主体的な協働というステージに移していくことが大事。</li> <li>○まちづくりでは官民連携の取組が協働と考える。行政がいないと実現できない取組であっても、行政だけでは議論が広がっていかない。</li> <li>○協働において、仕組みづくり、コーディネートなど行政によるサポートは必要だが、全てを行政が担う必要はない。区民同士が支援し合うという考えが必要。</li> <li>○協働が進まないネックは行政側にもある。外部から人材を登用して行政側を変えていくという逆転の発想が必要。</li> <li>○区民の生活に近い福祉・出産・子育てのように、区民生活の延長にまちづくりが位置付けられていないと、住民発案のまちづくりにはなりづらく協働が進まないのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ICTを活用した空きスペース、空き時間、個人が保有する技術(専門的知識)のシェア(シェアリングエコノミー)。</li> <li>○交通事業者、住民利用者、道路管理者、交通管理者など利害関係者による協議会方式で策定する地域公共交通計画を協働の先駆的な取組として捉えて進めるべきではないか。</li> </ul>
--	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------